

# M9 東日本大震災 死者・行方不明者 2万人



南三陸町役場防災対策庁舎屋上を超えてきた津波(同町提供)



この防災対策庁舎の屋上で、多くの職員が津波にさらわれた



壊滅的な被害となった三陸の町(写真S49年度卒菅野哲也氏撮影)

3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震が発生、最大震度7の激震、間もなく10mを超す大津波が太平洋沿岸を襲った。

気仙沼では大型船が内陸まで押し上げられ、流された重油タンクから出た油で街中に火災が広がった。南三陸町では津波が3階建ての町役場防災対策庁舎を超え、屋上に避難していた職員が波にさらわれ、石巻市では新旧北上川を遡った津波により、県内最大の4千人が犠牲になった。東松島市沿岸部に高台がなく、市街地の65%が浸水。仙台より南の市町には海岸から数kmのところを海沿いに走る仙台東部・常磐道まで津波が押し寄せた。

電話がつながるようになった16日、野田慶人芸術学部長から、校友の被災を案じるお電話を頂き、綾部東洋子校友会長からは手紙でお見舞いいただきありがとうございました。東北各江古田会長と連絡が取れたものの互いに沿岸部会員の安否がわからない状況が続きました。

3月末になって会員10名の津波による建物損壊、会員や県出身卒業生の実家被災は相当数に上ることがわかりました。

震災後、当江古田会元副会長の門間徳二様(文芸S46年度卒)が、経営する仙台筆筒店の被災と心労が重なりお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。

宮城江古田会会長 塚崎隆夫(写真S42年度卒)

## 東日本大震災 被害状況(10月4日宮城県まとめ)

宮城県内の死者	9,437名
行方不明者	2,088名
建物の全半壊	168,000戸
避難者数(最大時)	300,000名

仙台市内などで地震による建物、什器備品の損傷、電気・水道・ガスなどのインフラ復旧の遅れ、食料・ガソリン・灯油不足で会員全員が被災。

## 大津波 その時？



気仙沼港近く、さらに津波は高くまで来た(山本さん撮影)



石巻市旧北上川河口の門脇地区(菅野氏撮影)



避難所の「にじいろクレヨン」(柴田氏撮影)



ニューヨークのギャラリーにて(鈴木さん撮影)

**佐々木健夫さん**(写真S44年度卒、気仙沼市、佐々木写真館)「津波警報で避難途中、後ろを振り返ると、津波が家々を壊し土煙を上げながら迫ってきた。ビル2階の写真館は水没、機材をすべて失った。4か月の避難所生活を経て、父親の写真館跡にやっと新写真館を再開した」

**宮井康夫さん**(放送S43年度卒、気仙沼市、観光タクシー専務)「ワンセグテレビで岩手に大津波という情報で、全車両に無線避難指示を出して車は助かったが、会社も自宅も残らず持って行かれた。65歳、新たな気持ちで頑張りたい」

**山本和香さん**(音楽S51年度卒、気仙沼市、船具店)「逃げ遅れて店舗兼住宅3階屋上に家族・従業員と避難、真っ黒い津波がもの凄い勢いで家の周りを流れてきた。建物は揺れ生きた心地がしなかった。1階の壁はなくなり船具は流されてしまった。担任だった渡辺馨先生からの励ましが嬉しかった」

**鈴木崇文さん**(写真S39年度卒、石巻市、鈴木写真館)「商店街を津波の濁流が流れ、車が突っ込み写真館は損壊した。父親の戦前のガラス乾板、四つ切暗箱カメラなど貴重なものを失った。市内に鈴木写真館壱番スタジオを再開した」

**柴田滋紀さん**(美術H11年度卒、石巻市、こどもアトリエ)「後ろから津波に追いかけられながら、小学校に避難したがすぐ火災になり、日和山に何人ものお年寄りを担いで避難させた。避難所の子供たちを元気づけるため、NPO石巻こども避難所クラブを立ち上げ、ボランティアでお絵かき教室などを開いている。芸術学部応援団や市民の支援などを受け、避難所や仮設住宅などで活動しています」 <http://kodomohinanjoclub.cocolog-nifty.com>

(必見！3.11命のつかいみち)

**鈴木麻弓さん**(写真H12年度卒、逗子市在住、フォトグラファー)「女川の実家の佐々木写真館が津波の直撃を受け、両親は行方不明になった。父が続けていた学校の記録写真撮影をボランティアで続けています。Hug Japan主催で5月ニューヨークにて、被災した子どもたちの絵画、私が撮影した「the day, and after」、父の船大工シリーズの写真などを展示しました」

<http://monchiblog.exblog.jp/>(写真展情報など載っています)

**鈴木きよ子さん**(文芸S46年度卒、亘理町、オルゴール工房)「津波が床上まで来て、工房の工作機械7台が水に浸かってしまった。全部修理して再びオルゴールづくり始めました。最初の仕事は、家族のためにと毎年買って頂いていたお客さんの、地震で壊れたオルゴールの修理でした」

## 会員の活躍

**千葉真康さん**(音楽H12年度卒、東京在住)

平成22年7月28日開催された日本大学校友会宮城県支部総会で、ギターを演奏していただきました。海外で活躍する一方、地元仙台での演奏活動をしています。お寺の本堂などや、オーケストラと共にホールで弾いても、弦の音色が聞く人の体全体に響き渡る。情熱的だ。今年は2月に宮城県議会ラウンジコンサート、3

月震災直後に栗原市の寺院で、9月に仙台の良覚院で公演しました。

<http://art-studio-m.com/>  
gt/



演奏する千葉真康氏

**柴田滋紀さん**(美術H11年度卒、洋画家)

平成22年度宮城県芸術選奨の美術(洋画)部門で新人賞を受賞。今年8月26日に授賞式が行われました。おめでとうございます。(受賞理由) 常に自己研さんに努め、毎年仙台で個展を開催されているほか、日展の登竜門として知られる日洋展において、2年連続して最高賞である日洋賞を受賞されている。また、地元では子供アトリエを立ち上げ、創造教育育成のため尽力されている。今後も地域に密着した画家として、精力的な活躍が大いに期待される。

**佐藤円さん**(放送H4年度卒、音声詩人)

平成21年に4冊目となる詩集「さとうのつめあわせ〜カロリーオフ〜」を東洋出版から出版。やわらかい文体ながら核心を突く短い言葉が散りばめられています。最近演奏会の司会と共に自作詩の朗読も精力的。ワンマンDJスタイルのラジオ番組「さとうの気持ち」はfmいずみで6年目。タピオ館立オープン大学で昭和のアイドルに関する講座も開いています。Twitterにて「毎日ひとつぶ」をこつこつと展開中とのこと。<http://www.paw.hiho.ne.jp/sugar/>

**柳橋邦彦さん**(文芸S38年度卒、仙台市議会議員)

宮城江古田会副会長の柳橋さんが平成22年秋の叙勲にて旭日小綬章受章いたしました。11月8日皇居にて陛下からお言葉を頂き、12月7日仙台で受章を祝う会を開催、深松勇日大校友会宮城県支部長代理はじめ各学部校友会宮城県支部長がお祝いに駆けつけていただきました(写真右下)。サプライズなプレゼントはないかと思い巡らし、柳橋さんが生まれた1940年のワインを探しました。残念ながら日本には見当たらず。1940年

物のブランデーを手配。日本に在庫する最後の一本でした(写真右)。柳橋さんの好意で70年物のブランデーを皆なで味わいましたが、それはそれはとっても濃厚な味でした。濃厚な柳橋さんの味が浸透、23年8月の仙台市議選で6期目の当選を果たしました。 1940年の酒を手にする柳橋氏



## 宮城江古田会総会

平成22年度宮城江古田会総会を5月28日開催。木村政司芸術部学部長代理より芸術学部キャンパス、校友会館建設事業など大学の近況報告があり、総会議事では事業計画と予算、役員改選案件が満場一致で承認されました。懇親会では綾部東洋子校友会会長から周年事業相次ぐ各県江古田会の活動が報告されました。出席会員からは研究室・部活仲間や先輩後輩と30〜40年続く交流、全国で活躍する県出身卒業生の話題で盛り上がっていました。

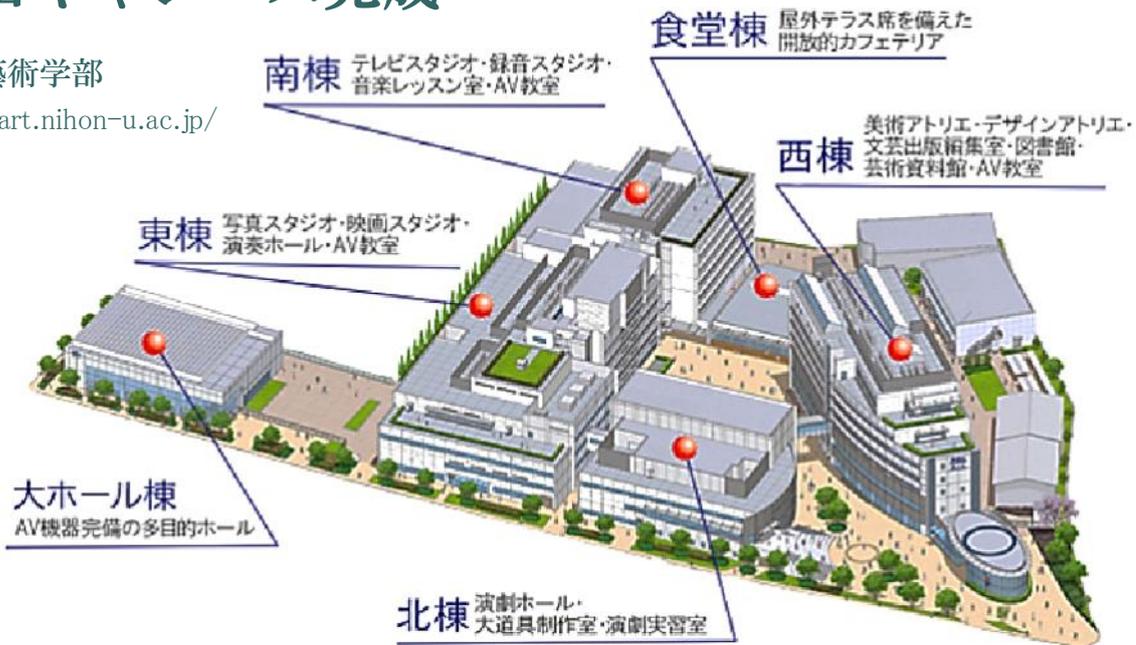


柳橋邦彦氏の旭日小綬章受章を祝う会 H22.12.7

# 江古田キャンパス完成

日本大学藝術学部

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>



## キャンパス竣工 ホームカミングデー

平成16年に着工した芸術学部江古田キャンパスの新校舎が平成22年4月に竣工した。ここまでオープンでいいのかと思えるほど開放的で、中庭・学生ホール・ギャラリー棟などで8学科のコラボレーション+コミュニケーションができるように、「8つのアート、一つのハート」を生み出すキャンパスとなっている。

私が学校を訪れたとき、道路から見える北棟大階段ではモデルをデッサンしている授業、中庭ではカメラを手にしたグループ、ベンチでは談笑する学生、

CMを見ているような新鮮な風を感じた。7月31日と8月1日の二日間、ホームカミングデーとして卒業生に学内開放され、台湾含む各江古田会からそれぞれ団体に訪れた。もちろん宮城江古田会からも在京組と合わせ8人が参加、デジタル機器をそろえたテレビスタジオや写真スタジオ、音楽レッスン室などをくまなく探索した。出た言葉は「俺たちの時代はテニスコートと土のグラウンド、新鮮な隙間風が吹き抜ける校舎だった。今の学生は幸せだなあ」

### 宮城江古田会の歩み

平成元年、日本大学校友会宮城県支部芸術学部会として発足、初代会長は依田掌さん(映画S32年度卒)その後宮城江古田会に改称。平成20年に20周年記念「アートフェスティバル・東北」をせんだいメディアテークで開催、東北各支部からも写真や絵画、彫刻を出展いただき、ステージではトークや歌や演奏が盛大に繰り上げられた。会員数は150名。今後は県出身会員、学生との連携、会員の芸術活動への支援を深めていくことにしている。

### News! 学校法人南光学園 東北高等学校 日本大学の提携校に

平成23年7月27日に開催された日大校友会宮城県支部総会の席上で、若女井校友会本部長から、東北高校が日大の提携校となったことが報告された。推薦枠が拡大され、将来、**宮城に日大附属高校!**という夢の広がる提携になった。

#### 編集後記

宮城江古田会として最初の会報は、東日本大震災特集になりました。依田前会長は「1か月余りも小学校まで水汲みの毎日だった」そうです。

今回の会報は、平成23年度の総会開催が震災で半年遅れたため、1年半分の古い報告となりました。年2回発行を目指し、会員の演奏会や個展など活動予定を入れたと思っています。皆様からの情報お待ちしております。

なお、事務局長の桑折洋一さん(放送S55年度卒)はFMたいはく19:30~「じじネタ!オンタイム・トーク」の火曜日パーソナリティーをやっています。(T生)

発行責任者 塚崎隆夫  
事務局

〒980-0802仙台市青葉区二日町12-21 (有)アズシステム  
桑折洋一 Mail: [koori@az-sys.co.jp](mailto:koori@az-sys.co.jp)